

2015 年(平成 27 年)10 大ニュースを選定 ～市政を中心として～

市民の皆様の生活を守り、まちを元気にするために今年も様々な政策に取り組んできました。

年末にあたり平成 27 年の 10 大ニュースを選定し、市民の皆様とともに進めてきたまちづくりを振り返ります。

(時系列順)

1 指定ごみ袋によるごみ出しを開始 (1 月)

～ 「可燃ごみ」と「資源プラスチック」の 2 種類を導入 ～

分別の徹底により可燃ごみに含まれているプラスチック類を資源化するとともに、可燃ごみをより一層減量し、CO₂の削減を図ることを目的に 1 月から指定ごみ袋制度(「可燃ごみ」用と「資源プラスチック」用の 2 種類)を導入しました(1 月から試行、4 月からは本格的に実施)。

2 北播磨総合医療センター一般病床フルオープン (2 月)

～ 入院機能が大幅に強化 ～

北播磨総合医療センターは平成 25 年 10 月に病床数 342 床で開院しました。その後、450 床のフルオープンをめざし段階的に病棟を開設。残っていた 7 階東病棟(50 床)を 2 月に開設したことにより、一般病床 440 床がフルオープンしました。

これにより入院機能が大幅に強化され、急性期の患者の受け入れが順調に進んでいます。残っている救急病棟(10 床)についても、できるだけ早期の開設をめざし取り組んでいます。

また、急性期脳卒中等の診療機能をより強化するため、急性期の脳卒中患者等を受け入れる専門病棟(SCU)も 11 月に開設しました。

3 「三木市共に生きる手話言語条例」を制定 (3 月)

～ 手話で意思疎通を図る機会を拡大 ～

手話に対する理解の促進のほか、手話の普及及び手話を使用しやすい環境の整備などについて定めることにより、全ての市民の人格と個性が尊重され、自

分らしく豊かに暮らすことができるまちを実現するために「三木市共に生きる手話言語条例」を3月に制定しました。

4 三木市幼保一体化計画を策定（3月）

～ 就学前教育・保育の充実をめざして ～

家庭での育児を大切にしながらも必要とするすべての子どもたちが教育・保育を均等に受けることができるとともに、まちの活力を維持し発展させていくために「幼保一体化計画」を3月に策定しました。

今後は計画で定めた就学前教育・保育の理念を実現するために、これまでの併存していた幼稚園と保育所（園）の一部公立も維持しつつ、民間主導型の幼保連携型認定こども園に移行します。

5 三木市総合教育会議の設置（4月）

～ 三木市の教育のあるべき姿を協議 ～

市長と教育委員会がこれまで以上に意思疎通を図り、本市教育の課題及びめざす姿等を共有しながら、同じ方向性のもと、連携して効果的に教育行政を推進していくことを目的とした「三木市総合教育会議」を4月に設置しました。

市長と教育委員会が、三木市の学校教育、家庭教育、生涯学習、文化の振興等に関する課題や方向性を共有し、三木市の教育理念や基本的な目標を示した教育大綱を今年度中に策定するため協議を行っています。

6 「ゴルフ場利用券」と「プレミアム付き商品券」を発行（5月、7月）

～ 市内でお金や商品、サービスの動きを増やす ～

西日本一ゴルフ場が多く所在する三木市の特徴を活かし、ゴルフによる地域振興を推進するため、10,000円で15,000円分の利用ができる「ゴルフ場利用券」を発行。また、7月からは市民の皆様の生活を応援するとともに、市内商店（小売業・飲食業・サービス業・建設業等）への来店者を増やすため、10,000円で12,000円分の使用ができる、プレミアム付き商品券を三木地域と吉川地域それぞれで発行しました。

発行状況

(1) ゴルフ場利用券 5,000セット

(2) プレミアム付き商品券

①旧三木地域 30,000セット

②旧吉川地域 5,000セット

7 中央図書館オープン（7月）

～ 里山と一体となった「杜の図書館」 ～

「より多くの人に、より多くの知る喜びを」をコンセプトに整備した中央図書館が7月1日にオープンしました。館内では南側一面に緑が広がる景色の中で読書を楽しむことができます。また、一般書9万冊、児童書3万冊の計12万冊を配置するほか、DVDなどを見るコーナー、対面朗読室、グループや個人での学習・研究を支援するための「グループ研修室」「研究支援室」などを設けています。

8 「こども発達支援センターにじいろ」を開設（7月）

～ 児童発達支援、放課後等デイサービス事業などを開始 ～

障がいのある児童や発達に支援が必要な児童を支援するため、「こども発達支援センターにじいろ」を旧市民病院管理棟に開設し、児童発達支援や放課後等デイサービス事業などを開始しました。

言語訓練や機能訓練などの個別療育をはじめ、少人数での集団療育を実施しています。また、市内の学校園とも連携し児童の発達を支援しています。

9 中学3年生までの医療費の完全無料化を決定（9月）

～ 平成28年1月から無料化を実施 ～

若い世代がよりいっそう安心して子どもを産み育てられる環境を整えるため、平成28年1月から従来行っていた保護者等の所得制限や病院等での一部負担金を撤廃し、0歳～中学3年生の医療費（保険診療分）を完全無料化します。

10 市内間移動のバス運賃に「一律運賃制」を導入（10月）

～ 「ニコパカード」の利用により原則として一律200円 ～

路線バス、コミュニティバス（みっきいバス・みっきいよかたんバス）、北播磨総合医療センターへの直通バスの区分をなくし、3つのバスを全て路線バスとして運行するようバス交通を見直しました。あわせて、ICカード乗車券「ニコパカード」の利用により、三木市内間移動のバス運賃を原則として一律200円（小児・障がい者100円）とする「一律運賃制」を導入しました。

問い合わせ先 三木市企画管理部広報広聴課
電話 0794-82-2000（内線2308）

＜平成 27 年 三木市 10 大ニュース一覧＞

- 1 指定ごみ袋によるごみ出しを開始（1 月）
～ 「可燃ごみ」と「資源プラスチック」の 2 種類を導入 ～
- 2 北播磨総合医療センター一般病床フルオープン（2 月）
～ 入院機能が大幅に強化 ～
- 3 「三木市共に生きる手話言語条例」を制定（3 月）
～ 手話で意思疎通を図る機会を拡大 ～
- 4 三木市幼保一体化計画を策定（3 月）
～ 就学前教育・保育の実現をめざして ～
- 5 三木市総合教育会議の設置（4 月）
～ 三木市の教育のあるべき姿を協議 ～
- 6 「ゴルフ場利用券」と「プレミアム付き商品券」を発行（5 月、7 月）
～ 市内でお金や商品、サービスの動きを増やす ～
- 7 中央図書館オープン（7 月）
～ 里山と一体となった「杜の図書館」 ～
- 8 「こども発達支援センターにじいろ」を開設（7 月）
～ 児童発達支援、放課後等デイサービス事業を開始 ～
- 9 中学 3 年生までの医療費の完全無料化を決定（9 月）
～ 平成 28 年 1 月から無料化を実施 ～
- 10 市内間移動のバス運賃に「一律運賃制」を導入（10 月）
～ 「ニコパカード」の利用により原則として一律 200 円 ～

【次点】

- 三木市民 20 名が大分県竹田市を訪問（2 月）
- 台風 11 号の接近により観測史上最大の降雨量を記録（7 月）
- 話せる英語教育を推進（8 月）
- 三木市成年後見支援センターを開設（10 月）